

オーストラリアキチヌの種苗生産

多和田真周・勝俣亜生・仲村伸次

1994年2月13日から16日まで少量の産卵がみられた後、産卵しなくなったので、2月25日にゴナトロピン200単位の筋肉注射を行った。3～5日後に少量の産卵はあったが、種苗生産に使用するだけの量にはならなかった。その後、3月7日にも再度ゴナトロピン360単位を腹腔内注射したが4～5日後に少量産卵したに留まり、今年

度の種苗生産は行えなかった。

親魚は5才魚が主体で弱齡魚がおらず、雄魚が不足していたと思う。また、雌魚も成熟が順調でなかったかもしれない。次年度の生産に向けて、天然の大型親魚及び1年魚を確保する予定である。